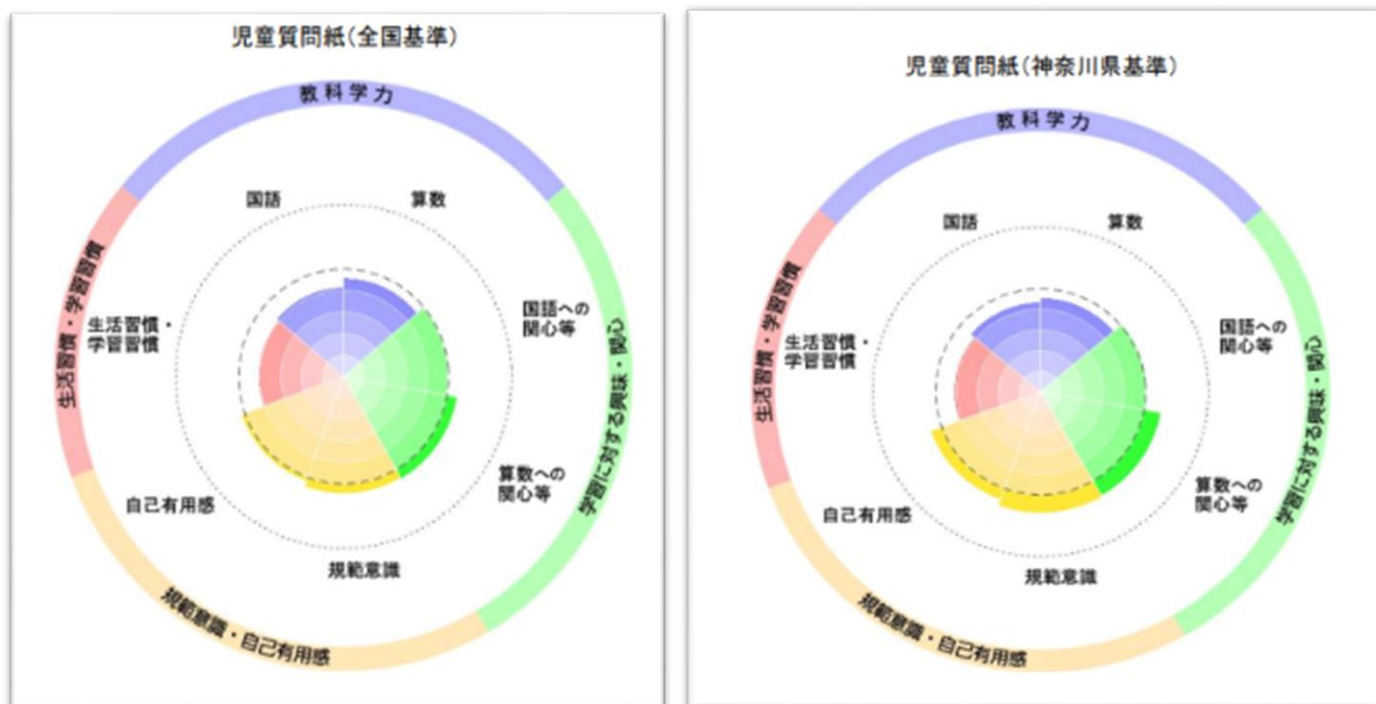


# 令和5年度 全国学力・学習状況調査（6年生対象）結果報告

横浜市立六つ川西小学校

4月に実施された「全国学力・学習状況調査（6年生対象）」の結果報告です。本調査は、国語科・算数科の学力調査と、学習や生活の習慣などを問う〔児童質問紙〕の2つの調査にて行われ、その結果をもとに本校にて考察をしました。左が全国基準との比較、右が神奈川県基準との比較です。どちらも、破線の円が平均値を表しています。



## 国語「書くこと」に課題 学習への高い関心を足がかりに

国語科の調査は、全国・県の平均値を6%強下回る結果となりました。その中でも、「書くこと」については平均正答率で全国・県を12%ほど下回り、課題があるといえます。自分の意見を書いたり、まとめたりといった学習は多くの児童が苦手であるとの結果がうかがわれます。一方で、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約する問題は正答率94.5%と平均を上回り、これまでの学習が活かされているといえます。また、漢字を文や文章の中で使うことに課題が見られるため、教科を問わず日常生活から心掛けていくことが必要だといえます。

「児童質問紙」では、「国語の授業で書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見つけていますか」「物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を

具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか」等、学習への関心に関する項目が10%以上平均を上回っているため、今後も対話的な学びを通して「書くこと」等の力を育てていきたいです。

## 算数「数と計算」に課題 基礎的な計算を丁寧に

調査全般において、全国・県の平均を5%程度下回りました。学習指導要領の領域の平均正答率の状況を見ると、「A 数と計算」領域で、全国の平均値を7%強下回っており、特に課題があるといえます。また、問題形式別の回答状況を見ると、短答式、選択式、記述式の問題の中で、特に記述式の問題が全国・県平均値を下回っていることが分かりました。

「児童質問紙」では、「算数の勉強は好きですか」「算数の授業の内容はよく分かりますか」等の項目で10%程度平均を上回っており、算数の授業に対する前向きな姿勢がうかがわれます。知識として理解した内容を、技能として確実に身に付けられるよう、繰り返し練習していく必要があります。

以上の結果から、朝スキルの活用等で基礎的な力を身に付けるとともに、授業では考え方を教え合ったり共有したりすることを通して、考えを記述する力を高めていきます。

## その他（児童質問紙から）高い自己肯定感が見られる

### 読書習慣の定着が課題

「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか」等、自己肯定感に関する事項で全国・県平均値を上回る結果が見られました。また「人が困っているときは、進んで助けていますか」等で「そう思う」と回答した児童の割合も、平均値を上回っています。これらの結果から、自分や友達のよい部分を認め合いながら、規範意識をもって生活しようとする子ども達の姿が浮かんできます。また、「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりたい」「地域の行事に参加している」という割合も多く、学校外でも他者と関わろうとする意識も見られました。

一方で「読書は好きですか」「一日あたり、どれくらいの時間読書をしますか」等の質問では、全国・県の平均値を下回っていました。このことから、読書を通じた多領域の知識の習得や感性、想像力の涵養などが今後の課題とみることができ、国語科の学習を中心として、様々な機会をとらえて読書活動の充実に取り組んで参ります。